

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203006		
法人名	合同会社総合介護サービス		
事業所名	グループホームさくらそう 茶屋町		
所在地	倉敷市茶屋町早沖1575-16		
自己評価作成日	平成29年7月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigyosyoCd=3370203006-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階
訪問調査日	平成29年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私達は、利用者も職員も笑顔いっぱい施設をつくります」の理念のもと、明るく、元気な職場を目指し、理念教育を行っている。昨年から取り組んでいる玄関横の畑には野菜が育ち、入居者と共に収穫して料理に活かしている。1番人気はトマトで、収穫するとすぐに食べて無くなっている。外出支援にも力を入れており、季節を感じて楽しめるように行き先を入居者と共に決めている。施設内の行事では、ボランティアの方々を招いて、踊りやマジックショーを披露して頂いている。入居者の中には、一緒に踊る方や笑顔で拍手する方がいて楽しまれている。職員の定着率が安定している為、馴染みの関係の中で安心して過ごせる環境をつくっている。さくらそう茶屋町では、いつも入居者と寄り添い、笑いの絶えない環境をつくることで入居者の生活に落ち着きと活力を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流を深めたいと考え、朝の出勤時に合わせ事業所周辺を掃除し、挨拶をする機会を作っている。さらに子ども達とも交流を図る為、中学校の職場体験場所として活用してもらえるように働きかけ、実現することとなった。また、運営推進会議の場で、文化祭や体育祭の見学に参加する案も出ている。後、愛育委員からもバザーのイベントを案内してもらっている。職員は利用者に寄り添い、思いや意向の把握に努めている。発語が無かった利用者に、毎日職員が根気よく語りかけていた処、声を発する事が出来るようになった。利用者は表情と声で、より自分の気持ちを外へ表すことが出来るようになり、以前より活発になった。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達は、利用者も職員も笑顔いっぱいの施設をつくります」の理念のもと、明るく、元気な職場を目指し、理念教育を行っている。又、理念を共有できる様に事務所に掲示しており、朝礼時には唱和を行っている。	管理者は、職員の知識習得が職員の自信につながると考えている。さらにその自信は利用者の笑顔を増やす事につながると信じ、研修等に積極的に参加するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の際、地域の活動と我々も参加できる催しを教えて頂き、交流の場を増やしている。	地域との交流を深めたいと考え、事業所周辺の清掃時間を出勤時間に合わせ、挨拶を交わすようにしている。さらに学校との交流を図る為、職場体験の実習先として活用してもらえようお願いします、実現することとなった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、日々の実践や研修で学んだことをお伝えし、介護の疑問点等を話し合っている。9月には、地域の中学生3名を招き、職場体験を実施予定としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日頃の取り組みを報告し、頂いた意見を参考にして実践出来る様取り組んでいる。	会議の場で「職場体験の場所として提案しようと考えている」と伝え、「学校も場所探しで苦労しているみたいなので良い案ですね」と背中を押してくれた。新しい自治会長に事業所の内容を伝え、「出来る事があれば手伝う」と言ってくれている。	家族が参加していないので、家族にも声を掛け、職員や外部者へ意見を表せる場にして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、高齢者支援センターの方にも来所して頂き、地域の問題や独居の方々についても話し合いをしている。共通の問題点についても話し合い、協力関係を築いている。	地域包括支援センターが運営推進会議に参加してくれている。事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、意見をもらったり、他施設の参考例を教えてもったりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で「身体拘束」について、職員一同学びを深めている。皆が意識することで、些細なことにも気付く等、日々のケアにも活かされている。	内部研修を実施し、再度職員に周知を図った。ベットから滑り落ちたからといって、直ぐ床に寝てもらうのではなく、寝る位置を変えてみたり、見守りの頻度を増やしたりする等、利用者本意で検討して欲しいと伝えた。また「ちょっと待って」も、待っている人の立場を考えて具体的な目安と共に伝えるよう、周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で「虐待防止」について、職員一同学びを深めている。現場では日々の情報を共有し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で「成年後見制度」について、職員一同学びを深めている。又、後見人についての相談もあり、助言や対応をさせて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に入居者様やご家族様への説明をしっかりと行い、十分理解の上でご入居頂いている。入居後も不安や疑問等を聞き、対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当者をたて、意見・要望等も聞けるようにしている。また、面会に来られた際は必ずコミュニケーションを図り、頂いた意見は反映出来るよう管理者・職員と話し合っている。	面会時や家族会の場で意見や要望を聞き、運営に反映させている。利用者からの要望は個々に聞き、対応をしている。例えば「畑の野菜が熟したから収穫してきて」「窓を洗って」等、細かな要望も聞き入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から会話を密にし、気軽に言えるような雰囲気作りをしている。また、月に1度の会議でも意見を言える時間を取り、話し合いのもと反映している。	運営に対してより深く関わってもらう為、研修や講習には積極的に参加を勧めている。その際には手当ても出している。職員の意識も向上し、提案がよく出るようになってきている。出された意見が反映されるので、職員のやりがいにもつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務の中で担当制を設け、職員全員が役割を持ってもらうことで、やりがいに繋げている。又、外部の研修にも参加出来るよう、情報提供を行っている。給与水準は、キャリアパス基準を設けて定めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修は、ほぼ全職員に参加してもらい、外部研修の参加も呼びかけている。初任者研修や実務者研修を取得しやすいように、勤務の都合等に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、他施設とのケアマネ勉強会に参加したり、同業者が集まるスキルアップ研修に参加し、グループワークで意見交換する等、学びを深めている。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント・カンファレンス等で情報を収集することにより職員間で情報を共有し、入居者様に寄り添い、不安等を取り除くよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み・契約時にはまず、ご家族様の要望・不安を伺い、それをもとに本人と話をした上でサービス・支援の参考にさせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談等で状態の把握を行い、管理者・ケアマネ・職員を含め話し合い、入居者様に合った支援方法・優先順位を考え実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中では一緒に洗濯・掃除等参加し、持ちつ持たれつも関係を築いている。行事では、本人がやりたいこと・興味があることを企画し楽しんで参加してもらえるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	大きい行事にご家族様を招き、昼食と一緒に食べたり、催し物に参加してもらったりと一緒にすごせる時間を増やしている。また、家族会を開催し、入居者様へ望んでいる支援などを伺い活かせるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や友人・親戚の方など面会に来られた際は、ゆっくり会話が出来るよう居室で話をしてもらっている。	敬老会や夏祭り等の大きな行事には、家族を招待し、利用者と交流を図ってもらっている。娘が同僚を連れて遊びに来てくれた利用者もいる。毎年地元の花火大会を楽しんでいた利用者の家族が、今年も連れて行ってくれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションでは皆に参加してもらい、入居者様同士関係を深められるように支援している。コミュニケーションが苦手な方は職員が間に入って孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も何かあった際には相談してほしい旨、退去時に話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には過去の生活歴等をヒアリングし、今までの生活を入居してから生活に活かせるよう、カンファレンスの際にしっかり話し合っている。	一人ひとりのコミュニケーションを大事にし、思いを汲み取る様に努めている。食事介助も利用者が食べたいと意思を表してから口に食べ物を運んでいる。発語が無かった利用者に、毎日職員が語りかけていた処、声を発して思いを伝える事が出来るようになった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様、本人やケアマネジャーからヒアリングを行い把握した情報をアセスメントシートに記入し、カンファレンスで職員に伝えたのち、入居頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りでその日の状態・状況を報告し、日々の変化は申し送りノートで共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に本人、ご家族様やケアマネジャーからの要望を聞き、計画書を作成している。入居後は入居者様の様子を観察し、入居者様にとって一番良い介護支援は何かと職員と話し合い、計画を作り直している。	3ヶ月に1度モニタリングを実施している。ケアマネジャーと計画作成担当者が大まかな話し合いを行い、ユニット会議で状況を伝え、他に意見がないか職員に確認してから作り直している。家族には面会時に説明を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に詳しく残すよう努めている。日々の変化は、申し送りノート等で情報共有し、月1回のユニット会議で話し合うことで、ケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の変化に伴った支援を常に考え、話し合い支援方法など変更するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天候の良い日には散歩に出掛けたり、季節ごとの野菜や花を植え、水やりなどを一緒にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診があり、ご家族様の了承のもとに診察を受けている。又、希望の病院も受診できるよう考慮している。	入居時に馴染みのかかりつけ医がいるかどうかを聞いている。基本的に家族同行の受診をお願いしている旨を伝え、往診に来てくれる協力医も案内し、家族の意向を確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師に週1回診てもらい、入居者様の健康チェック・管理・相談をしている。状態変化等あれば、医師に相談・指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入居者様の詳細な情報を提供し、かかりつけ医と情報を常に共有している。入院時も面会に行き、状況確認している。退院決定時には、日常生活が送れるよう、病院関係者と情報の共有し、日程を調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、説明をし同意をもらっているが、重度化した際はご家族様に現状の説明をし、再度確認している。また、医療機関とも蜜に情報を交換し、支援にあたっている。	入居時に事業所が出来る対応について説明をしている。重度化し、医師から看取りの方針を考えた方が良いと言われた場合は家族に連絡し、再度意向の確認をしている。食事が摂取出来なくなり、家族と話し合いの場を設けようとした時、「最期まで母親を見て欲しい」と書かれた手紙を渡された。その思いに応えながら支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルのもと、急変時の医療機関への連絡や緊急連絡網は周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回行っている。また地域の水害については、運営推進会議でも話し合い、避難経路等を作成している。	現在は年2回とも、夜間想定で実施している。日中は人手もあるが、夜間は一人体制のため、夜間の勤務が多い職員を中心に実施している。毎回台所から出火した想定にしていたが、今回はパターンを変えて実施してみた。	災害時の地域との連携がなかなか出来ていないので、協力関係が築けるよう、このまま交流を深める努力を続けて欲しい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションの際、言葉使いに注意し、丁寧な対応で一人一人を尊重するよう心掛けています。行事には入居者様の嗜好を取り入れ、反映させています。	言葉遣いには特に注意をしている。排便の確認等は、遠くから聞くのではなく近くに寄り、そっと確認するよう指導をしている。利用者の残存能力を信じ、勝手に出来ない決めつけることなく、出来る事はしてもらい、尊厳の保持に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、要望を傾聴できる環境を作っている。自己選択・自己決定ができるよう考慮している。又、入居者様からやりたいこと等を聞いて行事として組み入れている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食事時間等、個々のペースに合わせてるようにゆったりした時間配分になっている。個々によって希望されることが違うが、意に沿えるようレクリエーションを行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、日々入居者様に選んでもらっている。またご家族様と相談し、新しい衣装を用意してもらえるようお願いしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食の際は職員と入居者様一緒に食事が出来るようにしている。食事の際、好みも伺いながら手作りご飯に活かすようにしている。	献立は毎月事前に決めている。利用者からリクエストがあれば、手作りの日は献立を変更している。食が細い利用者には、まず他の利用者と同様の食事を提供し、食が進まない場合は、好物を添えるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量と水分量をチェックし、体重と合わせて把握している。ケータリングのバランスの良い食事と、週2回の家庭的な手作りご飯を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っている。自力で出来る方には行ってもらい、磨き残し等は随時職員が対応している。また、対応困難な場合歯科の方に治療をお願いしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレを基本とし、排泄パターンを把握して随時誘導している。尿意・便意がない方は、時間を確認しながら介助や声かけを行い、おむつの使用量を減らしている。	その人その人に合わせた対応をしている。例えば、トイレでの排泄が一番だと考えているが、下着が濡れて自尊心が傷ついてしまう人には、室内のポータブルトイレを利用してもらっている。入所前からおむつを使用していた利用者には、適宜に誘導し尿意を思い出しもらえるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、センナ茶やヨーグルトを提供し薬以外での働きかけを行っている。また、腹圧で排泄出来る様、腹部マッサージなども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週三回の入浴日は定めているが、入浴日にはとられず、バイタル異常や拒否などがある場合には柔軟に対応している。	一番風呂を好む利用者がいる。朝9時位に居室から出て来て、自ら血圧を測りだした時点でお湯を溜め、専用の椅子を浴室に置き、入浴が直ぐ楽しめる用意をしている。扉の前に衝立を置き、扉を開けた時に中が見えない配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムに合わせて、休息をしたり臥床ができるよう支援している。安心して夜間睡眠がとれるよう、静かで快適な空間を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後の服薬確認は常に行い、処方薬等の理解もしている。症状の変化は申し送りし、共有し、医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、本人に合った役割等をしてもらい、充実してすごせるよう支援している。毎月のイベントや季節に合った外出などを企画し、楽しみごとの支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩へ出掛けたり、入居者様の行きたい場所や季節に合った外出を企画し気分転換を図っている。近隣の地域行事に参加出来る様、運営推進会議で話し合っている。	気候が良い日は近隣を散歩し、外の空気に触れ季節を感じてもらっている。買い出しの際は、利用者も一緒に行っている。以前は車窓から景色を楽しむだけのドライブだったが、近頃は弁当持参で出掛け、季節を肌で感じてもらっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を預かっている入居者様はいないが、外出の際買い物等本人が買いたいものがある際はご家族様に連絡し、自由にお金が使えよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりをしている入居者様はいないが、電話は出来る範囲でできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは入居者様と作った作品を季節に合わせて飾ったり、雰囲気作りを工夫している。夏にはすだれ等で日よけをしたり、温度等も配慮している。	居間にある衝立を外し、外が見える位置にソファを置き、移り変わる景色を楽しんでもらっている。またソファを玄関にも置き、外出から戻った時などの休憩場所として利用してもらっている。畑には季節の野菜を植え、収穫しながら味を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士が集まり、ゆっくり会話をしたり、本人にとって居心地の良い場所を見つけてもらえるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れている家具をご家族様に持って来てもらい、落ち着く空間を提供する様に支援している。	夜間は居室で一人過ごす時間が増えるので、馴染みの物を持ち込めば寂しくないのではと考え、家族にお願いしている。導線を考えながら、馴染みの物を置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常に体操の時間を取り入れて、残存機能の維持と向上に努めている。出来る事は見守り、自己選択・自己決定を行い、自立への支援を心がけている。必要以上に物を置かない等、安全に生活が送れる環境を提供している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203006		
法人名	合同会社総合介護サービス		
事業所名	グループホームさくらそう 茶屋町		
所在地	倉敷市茶屋町早沖1575-16		
自己評価作成日	平成29年7月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3370203006-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年7月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私達は、利用者も職員も笑顔いっぱいの施設をつくります」の理念のもと、明るく、元氣な職場を目指し、理念教育を行っている。昨年から取り組んでいる玄関横の畑には野菜が育ち、入居者と共に収穫して料理に活かしている。1番人気はトマトで、収穫するとすぐに食べて無くなっている。外出支援にも力を入れており、季節を感じて楽しめるように行き先を入居者と共に決めている。施設内の行事では、ボランティアの方々を招いて、踊りやマジックショーを披露して頂いている。入居者の中には、一緒に踊る方や笑顔で拍手する方がいて楽しまれている。職員の定着率が安定している為、馴染みの関係の中で安心して過ごせる環境をつくっている。さくらそう茶屋町では、いつも入居者と寄り添い、笑いの絶えない環境をつくることで入居者の生活に落ち着きと活気を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達は、利用者も職員も笑顔いっぱいの施設をつくります」の理念のもと、明るく、元気の職場を目指し、理念教育を行っている。又、理念を共有できる様に事務所に掲示しており、朝礼時には唱和を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の際、地域の活動と我々も参加できる催しを教えて頂き、交流の場を増やしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、日々の実践や研修で学んだことをお伝えし、介護の疑問点等を話し合っている。9月には、地域の中学生3名を招き、職場体験を実施予定としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日頃の取り組みを報告し、頂いた意見を参考にして実践出来る様取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、高齢者支援センターの方にも来所して頂き、地域の問題や独居の方々についても話し合いをしている。共通の問題点についても話し合い、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で「身体拘束」について、職員一同学びを深めている。皆が意識することで、些細なことにも気付く等、日々のケアにも活かされている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で「虐待防止」について、職員一同学びを深めている。現場では日々の情報を共有し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で「成年後見制度」について、職員一同学びを深めている。又、後見人についての相談もあり、助言や対応をさせて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に入居者様やご家族様への説明をしっかりと行い、十分理解の上でご入居頂いている。入居後も不安や疑問等を聞き、対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当者をたて、意見・要望等も聞けるようにしている。また、面会に来られた際は必ずコミュニケーションを図り、頂いた意見は反映出来るよう管理者・職員と話し合っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から会話を密にし、気軽に言えるような雰囲気作りをしている。また、月に1度の会議でも意見を言える時間を取り、話し合いのもと反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務の中で担当制を設け、職員全員が役割を持ってもらうことで、やりがいに繋げている。又、外部の研修にも参加出来るよう、情報提供を行っている。給与水準は、キャリアパス基準を設けて定めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修は、ほぼ全職員に参加してもらい、外部研修の参加も呼びかけている。初任者研修や実務者研修を取得しやすいように、勤務の都合等に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、他施設とのケアマネ勉強会に参加したり、同業者が集まるスキルアップ研修に参加し、グループワークで意見交換する等、学びを深めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント・カンファレンス等で情報を収集することにより職員間で情報を共有し、入居者様に寄り添い、不安等を取り除くよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み・契約時にはまず、ご家族様の要望・不安を伺い、それをもとに本人と話をした上でサービス・支援の参考にさせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談等で状態の把握を行い、管理者・ケアマネ・職員を含め話し合い、入居者様に合った支援方法・優先順位を考え実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中では一緒に洗濯・掃除等参加し、持ちつ持たれつとも関係を築いている。行事では、本人がやりたいこと・興味があることを企画し楽しんで参加してもらえるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	大きい行事にご家族様を招き、昼食と一緒に食べたり、催し物に参加してもらったりと一緒にすごせる時間を増やしている。また、家族会を開催し、入居者様へ望んでいる支援などを伺い活かせるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や友人・親戚の方など面会に来られた際は、ゆっくり会話が出来るよう居室で話をしてもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションでは皆に参加してもらい、入居者様同士関係を深められるように支援している。コミュニケーションが苦手な方は職員が間に入って孤立しないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も何かあった際には相談してほしい旨、退去時に話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には過去の生活歴等をヒアリングし、今までの生活を入居してから生活に活かせるよう、カンファレンスの際にしっかり話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様、本人やケアマネジャーからヒアリングを行い把握した情報をアセスメントシートに記入し、カンファレンスで職員に伝えたのち、入居頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りでその日の状態・状況を報告し、日々の変化は申し送りノートで共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に本人、ご家族様やケアマネジャーからの要望を聞き、計画書を作成している。入居後は入居者様の様子を観察し、入居者様にとって一番良い介護支援は何かと職員と話し合い、計画を作り直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に詳しく残すよう努めている。日々の変化は、申し送りノート等で情報共有し、月1回のユニット会議で話し合うことで、ケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の変化に伴った支援を常に考え、話し合い支援方法など変更するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天候の良い日には散歩に出掛けたり、季節ごとの野菜や花を植え、水やりなどを一緒にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診があり、ご家族様の了承のもとに診察を受けている。又、希望の病院も受診できるよう考慮している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師に週1回診てもらい、入居者様の健康チェック・管理・相談をしている。状態変化等あれば、医師に相談・指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入居者様の詳細な情報を提供し、かかりつけ医と情報を常に共有している。入院時も面会に行き、状況確認している。退院決定時には、日常生活が送れるよう、病院関係者と情報の共有し、日程を調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、説明をし同意をもらっているが、重度化した際はご家族様に現状の説明をし、再度確認している。また、医療機関とも密に情報を交換し、支援にあたっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルのもと、急変時の医療機関への連絡や緊急連絡網は周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回行っている。また地域の水害については、運営推進会議でも話し合い、避難経路等を作成している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションの際、言葉使いに注意し、丁寧な対応で一人一人を尊重するよう心掛けている。行事には入居者様の嗜好を取り入れ、反映させている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、要望を傾聴できる環境を作っている。自己選択・自己決定ができるよう考慮している。又、入居者様からやりたいこと等を聞いて行事として組み入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食事時間等、個々のペースに合わせられるようにゆったりした時間配分にしている。個々によって希望されることが違うが、意に沿えるようレクリエーションを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、日々入居者様に選んでもらっている。またご家族様と相談し、新しい衣装を用意してもらえるようお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食の際は職員と入居者様一緒に食事が出来るようにしている。食事の際、好みも伺いながら手作りご飯に活かすようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量と水分量をチェックし、体重と合わせて把握している。ケータリングのバランスの良い食事と、週2回の家庭的な手作りご飯を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っている。自力で出来る方には行ってもらい、磨き残し等は随時職員が対応している。また、対応困難な場合歯科の方に治療をお願いしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレを基本とし、排泄パターンを把握して随時誘導している。尿意・便意がない方は、時間を確認しながら介助や声かけを行い、おむつの使用量を減らしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、センナ茶やヨーグルトを提供し薬以外での働きかけを行っている。また、腹圧で排泄出来る様、腹部マッサージなども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週三回の入浴日は定めているが、入浴日にはとられず、バイタル異常や拒否などがある場合には柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムに合わせて、休息をしたり臥床ができるよう支援している。安心して夜間睡眠がとれるよう、静かで快適な空間を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後の服薬確認は常に行い、処方薬等の理解もしている。症状の変化は申し送りし、共有し、医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、本人に合った役割等をしてもらい、充実してすごせるよう支援している。毎月のイベントや季節に合った外出などを企画し、楽しみごとの支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩へ出掛けたり、入居者様の行きたい場所や季節に合った外出を企画し気分転換を図っている。近隣の地域行事に参加出来る様、運営推進会議で話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を預かっている入居者様はいないが、外出の際買い物等本人が買いたいものがある際はご家族様に連絡し、自由にお金が使えよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりをしている入居者様はいないが、電話は出来る範囲でできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは入居者様と作った作品を季節に合わせて飾ったり、雰囲気作りを工夫している。夏にはすだれ等で日よけをしたり、温度等も配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士が集まり、ゆっくり会話をしたり、本人にとって居心地の良い場所を見つけてもらえるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れている家具をご家族様に持って来てもらい、落ち着く空間を提供する様に支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常に体操の時間を取り入れて、残存機能の維持と向上に努めている。出来る事は見守り、自己選択・自己決定を行い、自立への支援を心がけている。必要以上に物を置かない等、安全に生活が送れる環境を提供している。		